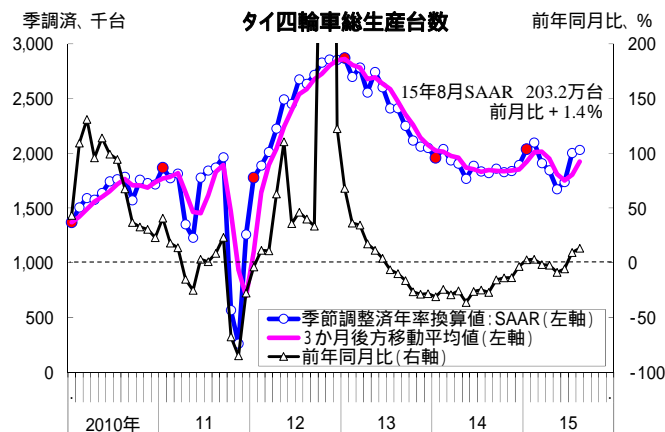


タイ自動車市場月次統計（2015年8月）

2015年のタイの四輪車輸出台数は120万台を超え、過去最高記録を更新する公算

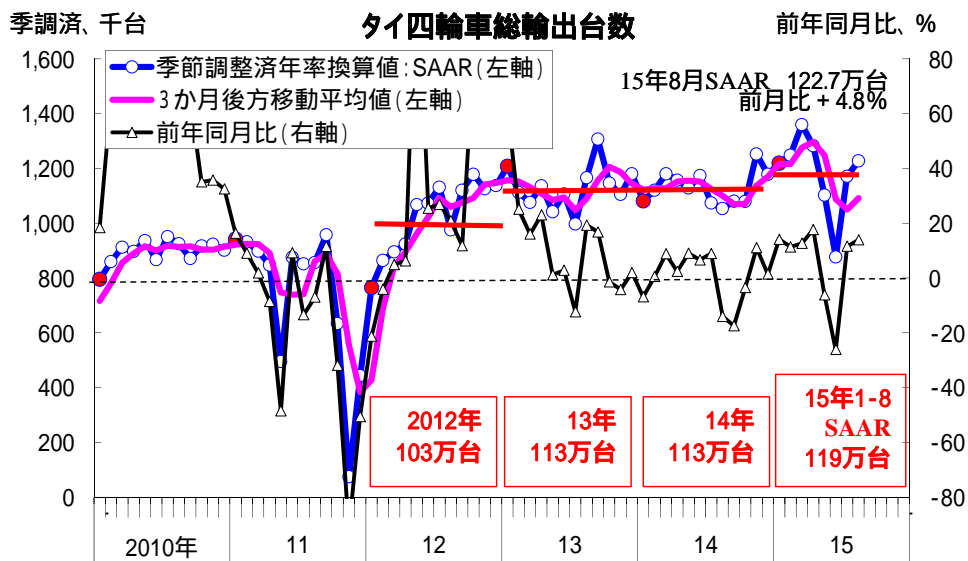
堅調な輸出拡大により生産は2か月連続で前年を上回る

- ・タイ工業連盟（FTI：Federation of Thai Industries）が発表した2015年8月の四輪車生産台数は、前年同月比13.3%増と2か月連続で前年同月を上回った。季節調整済年率換算値（X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR）も前月比1.4%増の203.2万台と3か月連続の増加となった（図表1）。増産の背景には、輸出の増加と国内販売の持ち直しがある。
- ・トヨタ自動車の世界戦略車「IMV」のひとつであるピックアップトラック「Hilux」の新型車は7月2日に輸出が開始された。生産面では6月から輸出車両の在庫積み増しが始まり、さらに7月以降は販売先を拡大したことで増産に拍車がかかった。
- ・8月の総輸出台数は2か月連続で前年同月比2桁%の増加となり（7月11.5%増、8月13.9%増）SAARも前月比4.8%増の122.7万台とこちらも2か月連続で増加した（図表2）。新型IMVの輸出開始で7月の輸出は大きく増加し、8月もその増勢を保った。エコカーを中心とした乗用車の輸出が拡大していることも、7月以降の堅調な輸出を後押ししている。タイに進出する日系関連企業への取材によると、現地での輸出車両向けの部品生産は引き続き堅調という声が多いため、輸出台数は当面安定的に推移すると思われる。
- ・なお、15年1月～8月の総輸出台数の平均SAARは118.9万台と、14年暦年実績112.8万台を上回っている。足元の輸出の強さが年末まで続くと、15年暦年での輸出台数は120万台を超え、過去最高記録（13年の113万台）を更新する蓋然性が高い。中国自動車市場の失速という逆風が強まる中、タイ自動車産業は生産車両の種類と輸出仕向け地の多様化を進めることで、輸出増加が内需低迷を補う体制が整ってきた点に要注目である。
- ・タイ国内の販売は低空飛行が続いているが、足元の販売台数は緩やかに増加している。8月の総販売台数は前年同月比9.9%減と引き続き前年を割り込んだものの、SAARは前月比0.9%増の77.5万台と2か月連続で増加した（図表3）。もっとも、農産物価格の低迷により農民の購買意欲は依然冷え込んでおり、また、自動車ローン審査の基準厳格化が国内販売の足かせとなっている状況にも変わりはない。国内市場は引き続き厳しい環境にあると考えられ、足元の販売増加をもって内需が本格的な回復局面に入ったと判断するのは時期尚早である。 図表1 8月生産台数（SAAR）は3か月連続の増加



注1： 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2： SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所： Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数のSAARは2か月連続の増加



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売は低空飛行続くが、7月以降は持ち直しの動き



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045 - 225 - 2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。